

樂亭西馬譯

連理翅山鶏者録

五編卷上

紅英堂梓

~ 13
3679
5



門 へ13
 號 3679
 卷 5

連理翅

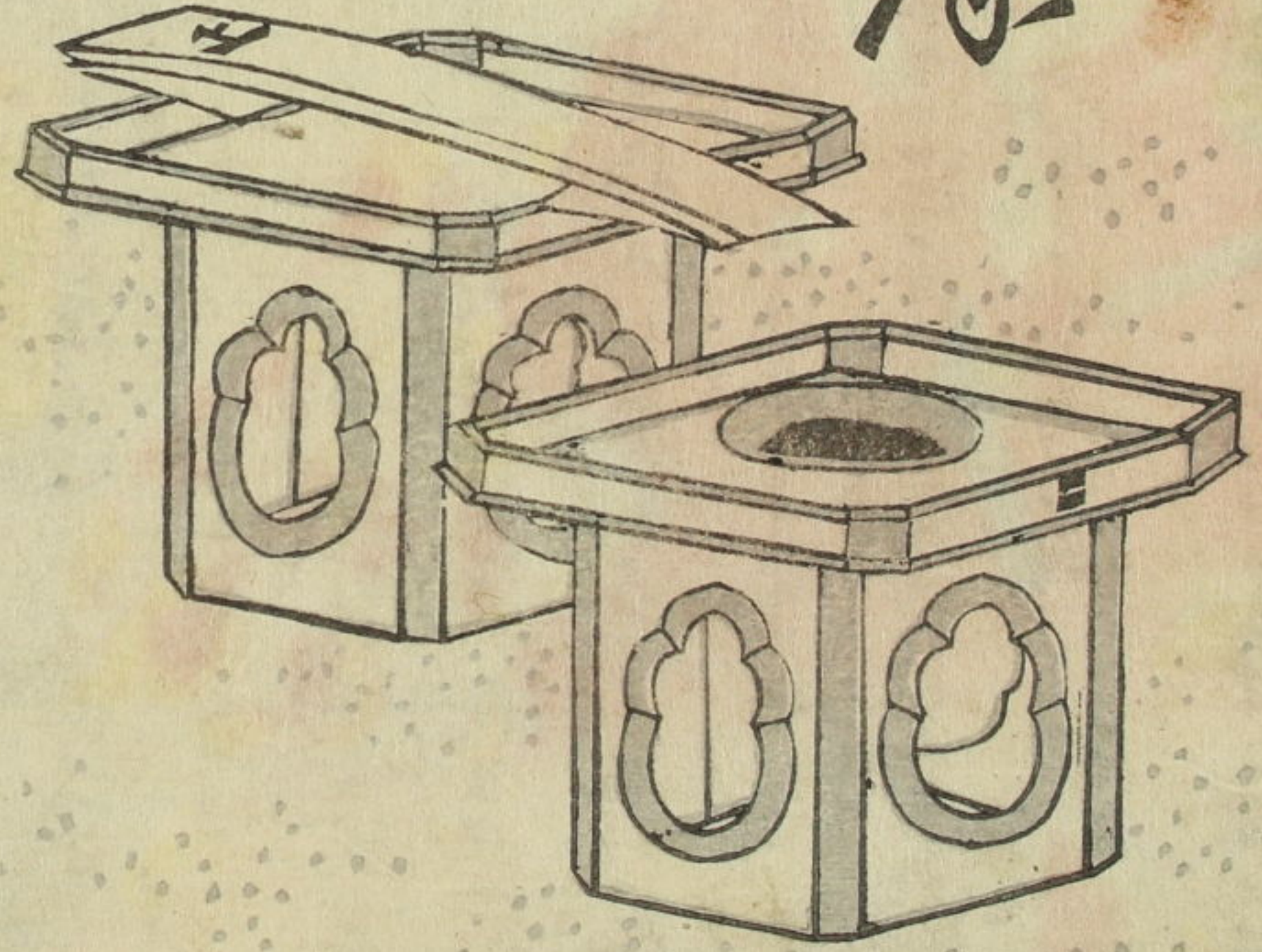
山鷄奇縁

五燈上の

楽亭傳

より伝

紅英堂後板



山鷄奇縁 題するの義笠羽の著述の月氷奇縁を丹紙に綴りてと書買は
 楽亭傳 山鷄奇縁の表目も其終る所記されども近頃流行の父傳童子訓を
 五燈上の 山鷄奇縁の表目も其終る所記されども近頃流行の父傳童子訓を
 連理翅 山鷄奇縁の表目も其終る所記されども近頃流行の父傳童子訓を
 楽亭傳 山鷄奇縁の表目も其終る所記されども近頃流行の父傳童子訓を
 より伝 山鷄奇縁の表目も其終る所記されども近頃流行の父傳童子訓を

嘉永六癸丑年七月下旬急稿
 全七年甲寅初春設刺梓行

七

樂亭西馬誌

一

○江島志賀の
城主佐木高員



○貴殿の
天竹の
さきりね
かきりね

○倭文が
妻
玉琴

○植杖憲忠の
室膳手夫人



○上
玉の尾
さきりね

○倭文の嫡子
二代の水原左近



且孝

ついでにこの山崎五十六の
 ぶらりとした山崎五十六の
 ちかちかとした山崎五十六の
 しんがらひの山崎五十六の
 ままの山崎五十六の

且平

倭文



海三

此の世のつらさをかきこみ
 けしきつらき世にたてまはるるれ
 まるくかきこみをかきこみ
 まるくかきこみをかきこみ

倭文

この世のつらさをかきこみ
 けしきつらき世にたてまはるるれ
 まるくかきこみをかきこみ
 まるくかきこみをかきこみ

目次

目次
 目次
 目次



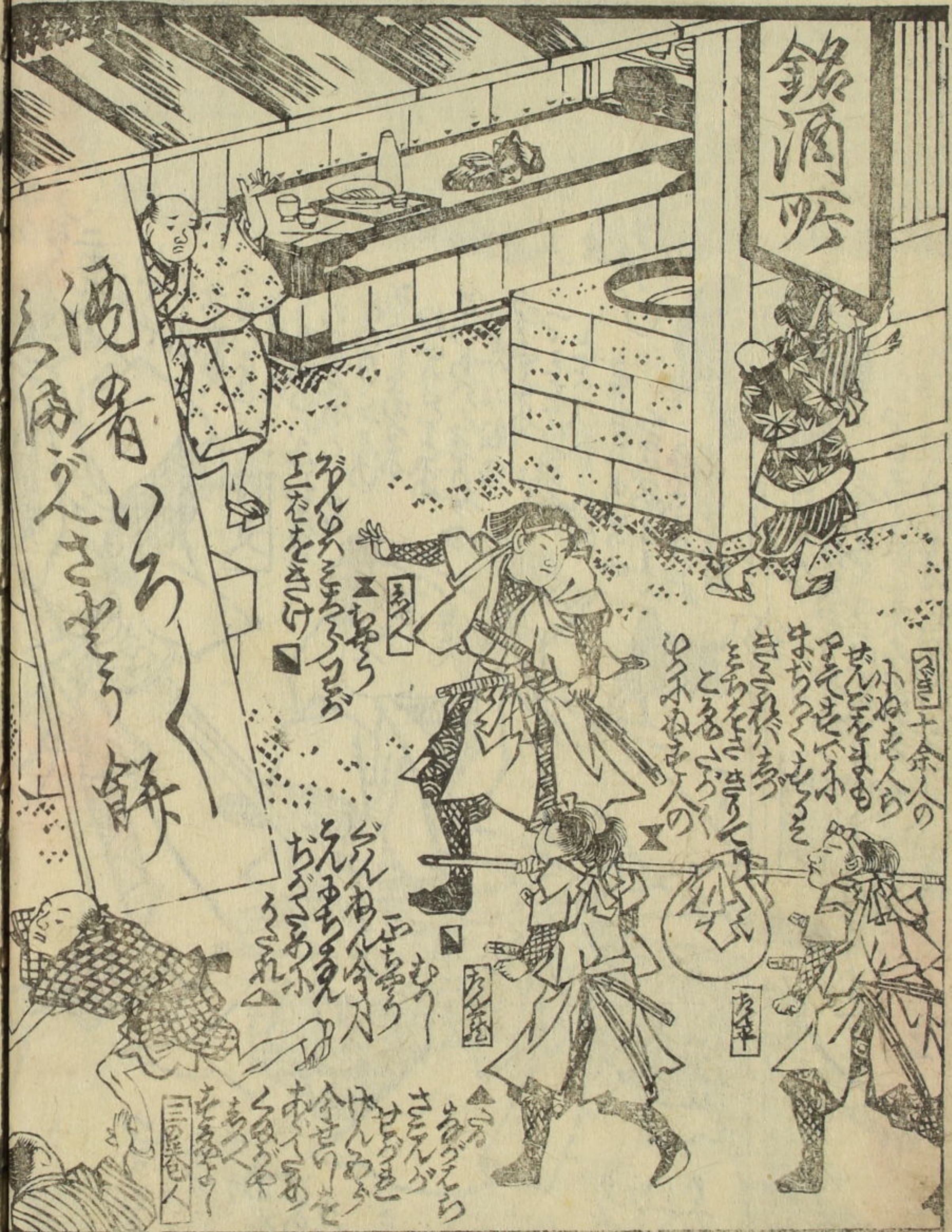
目平

石見太郎

目平
 目平
 目平

目平
 目平
 目平

目平
 目平
 目平



馬文補芳網画圖

本實母散

本方實母散... 中獨 南傳馬町二丁目東側 千葉堂孝輔製

御免病積湯 せんちやつふん

せんきのゆき

御用藥所 信州上田東山堂製

せんきのゆき 一匁 四匁 六匁

大日本國郡輿地全圖

大奉書 六枚巻

府郷御江戸繪圖

同新 六枚巻

せんきの業 取次所

繪草紙問屋

鳥屋吉藏

江戸南橋二丁目



一登齋芳細画

弁題曲五同画

五編六尾下





山権上八巻

且平

此のひげをひくんとおのれを
 べそねよとばかりはなれぬ



連理の
 片をさく山火く
 奇縁の
 下におし
 一舟の西の禪
 一舟の舟の舟

紅茶並
 掬



倭文
 五七九
 六八〇
 六八一
 六八二
 六八三
 六八四
 六八五
 六八六
 六八七
 六八八
 六八九
 六九〇
 六九一
 六九二
 六九三
 六九四
 六九五
 六九六
 六九七
 六九八
 六九九
 七〇〇



氏名 熊谷
 吉の房

山崎三太郎
 七〇一
 七〇二
 七〇三
 七〇四
 七〇五
 七〇六
 七〇七
 七〇八
 七〇九
 七一〇
 七一〇
 七一一
 七一二
 七一三
 七一四
 七一五
 七一六
 七一七
 七一八
 七一九
 七二〇



目平

玉こと

目録



体文

摩主



目平
 目藏
 倭文
 玉琴
 亭主

目藏
 倭文
 玉琴
 亭主

丁部

亭主

十五

嘉永七甲寅新春新鐫目錄

<p>大晦日曙草紙 十編 芳細画</p>	<p>八犬傳大島紙 十編 仙果録 國貞画</p>	<p>御贄美少年始 十編 同 録 國貞画</p>	<p>俠客傳小摸略説 十編 西馬譯 同 画</p>	<p>鳥巡浪背朝祭 六編 種貞譯 七編 國貞画</p>	<p>古今草紙合 十編 仙果作 十編 國貞画</p>
<p>連理刺羅奇縁 十編 西馬補 大尾 芳細画</p>	<p>松浦船水棹嬉書 三編 仙果録 四編 國貞画</p>	<p>八重撫子累物語 二編 同 録 三編 國貞画</p>	<p>花菱笠梅雅物語 三編 西馬譯 四編 國貞画</p>	<p>小幡小立物語 初五編 種貞作 三編 國貞画</p>	<p>地本問屋甚蔦屋吉藏板 東都南傳馬町二丁目</p>



三
三

三

